



2016年9月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第144号

川口クラブ会長 楽しかったと言える1年を！  
 主 湘南・沖縄部部长 あなたが退会しない理由は？  
 東日本区理事 明日に向かって、今日はたらこう  
 題 アジア会長 ワイズ運動を尊重しよう  
 国際会長 私たちの未来は今日

今月の聖句(強調月間 ユース)

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。

コレヘトの言葉 12章1節

7月例会報告

若木部長公式訪問・奥菌館長との懇談

第一部

会員が「明るく、楽しく、元気よく」活動する理由を確認しワイズの魅力ある活動内容とは何かを鮮明にし、その魅力を発信し仲間を増やしたいとの目的でアンケートが配られ全員回答しました。

第二部 vision2020 についての奥菌館長の説明



VISION 2020 に沿っての厚木 YMCA の事業展開についてご説明がありました。

Vision2020 の三つの基本方針

1. 次世代を担う子供たち、青少年のために
2. すべての人々の健康な生活を育むために
3. 人と人、人と地域がつながるために

基本方針 1. ☆野外教育活動の充実

☆発達障害のある子供への支援

☆ユースリーダー活動の推進など

例会データ	9月	在籍会員	19人
会 員	13人	メイキャッツプ済み	
ビジター	1人	出席率	
ゲ ス ト	1人		
合 計	15人	68%	

基本方針 2. ☆親子で健康を考えるプログラム作成

☆健康に関する定期講演会開催

☆地域クラブアンチエイジング設立

☆外国人介護福祉士養成・相談支援など

基本計画 3. ☆運営委員会、ワイズと協働して地域

諸団体とも連携して福祉に取り組む

☆介護予防委託事業、キッズコーディネーションプログラムの継続

☆福祉の広場の活用

☆日本語学科と他学科学生の行事を通じての交流など

第三部 奥菌館長との懇談

1. 挨拶の実行 Y・Y's お互いに
2. 福祉の広場 企画会議に川口会長出席決定
3. 日本語学科支援 さらに自宅開放などおねがいたい (Y側の希望)
4. 規格外農産物の販売 積極的にとつかクラブの協力も得て行いたい (クラブ側の希望)

石井副会長からの厚木 YMCA への要望

1. 厚木市は例えば防災など 100社ほどの会社団体と提携協議している。災害復興支援派遣に積極的な厚木 YMCA からぜひ参加してほしい。
2. 若い人の考え希望を聞く会を厚木市にある5大学の学生としている。厚木 YMCA 専門学校の学生もぜひ参加するようにしてもらいたい。
3. そのほかでもいろいろな面で協力し合える事業

があると思うので、介護予防委託事業の担当課だけでなく幅広く各部局と接触してほしい。いつでも紹介するから私のところへ来てほしい。

4. 姉妹都市韓国軍浦市の青少年との交流を密にしているが、厚木 YMCA のお考えが判らないので動けないでいる。

例えば近々軍浦市の中学生が来訪する、当然こちらからも訪問する、そのような行事に厚木 YMCA は参加をどう考えておられるか。

青少年のサッカー、軍浦 YMCA との交流などはどうかなど、厚木 YMCA だけではどうにもならない問題なら、本部のご担当と話し合う機会をぜひ設けてほしい。

### コミュニティとボランティア精神について

厚木 YMCA の奥菌新館長が関係先を新任挨拶に回られたと伺って、2000 年湘南・沖縄部部会で阿部士郎先生の講演の一節を思い出しました。以下はその要約です。

「私は横須賀へ参りまして 4 回引越しをしました。その都度タオルを持って近所の家に新入りですからどうぞよろしくと挨拶してきました。

ところが米国では、新しい住民がまいりますと近所の人とその家に来て、歓迎の挨拶をしてくれて、ゴミの出し方から生活のノウハウの隅々まで教えてくれる。これは大きな違いです。日本の社会は地縁で結ばれた地縁社会で、そこに入ると結ばれる訳で、新入りは挨拶を怠ってはならぬわけです。そこにはコミュニティというものはどこにもないのです。

コミュニティとは形成概念と申しまして、自分たちで作って行くものなのです。それは新しく来ようが、前からいようが、一緒に協力し助け合って作って行くところに意味があるのです。

助け合う私どもはいかなる心情に基づいてするのか。

その心情をよく伝えているのが沖縄の「ちむぐりさ」という言葉ではないかと思えます。石垣島の奥の波照間島という島の住民が 1945 年 3 月西表島に強制疎開させられてマラリヤで 500 人の人が命を落としたのです。その中に 66

人の小学生が含まれておりました。引率した校長先生は帰還を前に波照間島に見える海岸の石にひそかに痛恨の思いで忘勿（忘れるなかれ）と校長名を刻んで去った。自分が責任を持って引率した子供が大勢亡くなって申し訳ない。マラリヤで倒れた子供に自分は生き残って申し訳ない、その心情を表すのが『ちむぐりさ』という実に豊かな優れた言葉であります。この『ちむぐりさ』とは『きもが痛む』という字だそうです。自分は安全な所において、人は傷ついている申し訳ないというのが私はボランティアの原点ではなかろうかと思えます。」

### 忘勿石

西表島の当時僻地でマラリヤ汚染地帯の南風見田（ハエミタ）浜の東端の岩場の一角の立派な「忘勿石の碑」の右脇の岩場にひっそりと「忘勿石ハテルマシキナ」の文字が刻まれている。

この岩場では強制疎開中の初期、波照間島国民学



校の青空教室が開かれていたところで、疎開民は蚊帳もつれない掘立小屋で、食料の配給も途

絶えたなかでほとんどの人がマラリヤに罹り、その 3 分の 1 が死亡。たまりかねた識名信升校長の疎開解除の直訴により疎開を解除され 7 月末島に帰る際、校長がひっそり刻んだのが忘勿石ハテルマシキナの十字。

戦後しばらくしてこの石が発見された時、「この場所で勉強した生徒のなかからでた死者への追悼と強制疎開による死者の出たことを決して忘れてはならないとの思いから『波照間の住民よ、この石を忘れるなかれ』との思いを込めて刻んだもの」と識名校長は言葉少なに答えたという。

### 9 月行事予定

9 月 13 日（火）Y・Y's 協議会

9 月 28 日（水）厚木クラブ例会

会員による卓話と懇談